

平成18年2月4日

防具・用具検討委員会報告

用具検討委員会

足の防具に関し、蹴り技の衰退、怪我予防、実戦からの乖離、世界流布の点から用具検討委員会の開催要望が出された。委員会では半年間、計4回の会議から下記の報告をする。

<足の安全具に関し>

足に何らかの用具を付けて試合をする事に関し次のような意見が出された。内容は各部とも一方的な意見は少なく、賛否併せ持つ意見が多かった。ここではそれら意見の中身を賛否に分けて記す。

賛成

- *スポーツ化すれば当然必要になる。靴まで視野に入れた上での安全性を考えているのではないかと。特に膝のサポーターは強く望んでいる。
- *防具改良に終わりはない。積極的に工夫して欲しい。サポーターや軽いプロテクターの採用はいいのではないかと。
- *サポーターはすでに練習過程で試用しており、試合で使う事も問題ないと思われる。攻撃側だけでなく、受け手の安全にもなる。
- *鉄製面への攻撃を考えれば何らかの安全具が必要である。蹴りのコントロールはできないと思われる。しかし、足の攻撃力が過剰になってはいけない。

反対

- *武道性を尊重すればおかしい。靴はもちろんサポーター類も似合わない。
- *床面の素材によって付ける用具が変わってくるのではないかと。
- *蹴り方の工夫や空撃に対する審判技術の向上などで対応すべきである。
- *思いっきり面を蹴るという考えになる必要はない。基本は空撃にして、ルールの明確化を行うべき。用具を付けた足の攻撃でダウンするような場合はむしろ反則である。
- *用具は付けないに越したことはないが、肘や膝のサポーターはあってもいいと考える。ただ、それは最小限度でなければならない。また、選手の技術・体力の向上、審判の判断力の向上も必要。

「委員会からの提案」各種意見を踏まえ、用具検討委員会としては下記の提案をする。

- ①足の防具・用具に関し、靴の採用は見送る。受ける側の安全と武道の精神性から現段階での採用は難しい。
- ②安全具として、試合での肘・膝サポーターの使用を認める。
- ③試合でクッション材の入った足のサポーター（プロテクター）の装着を認める。但し、1年間の試用期間を置いて再検討する。クッション材は厚さ20mm以下のスポンジ系軟質材に限る。色は白。
- ④ 試合場の床素材は畳かマットにすることを推進する。
- ⑤ 蹴り技に関し、負傷を避ける技術・体力の向上と、審判規則・審判員技術の対応を図る。

<徳島大学OB山下氏の防具について>

基本的にはこれまでの防具仕様と大きな差異はないと考えられる。特徴は①面の中綿やグローブのクッション材として、新しい衝撃緩和材を使用していること。②軽量化を計る為に面鉄を細くしていることである。グローブに関しては中の材質に新たな衝撃緩和剤を使っている程度の変化であり、使用するのに問題はないと思われる。一方、面に関しては注意が必要である。提出資料の数字の裏付けを確認することが難しいし、判断に困ることも多い。そこで、委員会としては次のように決定した。

- * 半年間、練習での試用期間を経て結論を出す。試用期間中は新防具を貸し出し、アンケート調査を実施する。その上で、防具・用具検討委員会で再検討する。以上